

令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：34416  
 研究種目：基盤研究(A) (一般)  
 研究期間：2016～2020  
 課題番号：16H01968  
 研究課題名(和文) 応答の人類学：フィールド、ホーム、エデュケーションにおける学理と技法の探求

研究課題名(英文) Anthropology of Respons-ability: Exploring Principle and Method at Field, Home and Education

## 研究代表者

清水 展 (Shimizu, Hiromu)

関西大学・政策創造学部・客員教授

研究者番号：70126085

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 30,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、フィールドとホームで喫緊の重要課題に取り組む実践的介入の学として文化人類学の再考=再興を試みることであった。コロナ禍のために計画の実施に遅れその他の支障が生じたが、予算の繰越しを認めていただき当初の目的を達成することができた。期間中の5年間で21回の研究会を開催し、成果として以下の3冊を出版した。

1) 清水展・飯嶋秀治(編著)2020『自前の思想：時代と社会に応答するフィールドワーク』京都大学学術出版会。2) 清水展・小國和子(編著)2021『職場・学校で活かす現場グラフィー』明石書店。3) 北野真帆・内藤直樹(編著)2022『コロナ禍を生きる大学生』昭和堂。

## 研究成果の学術的意義や社会的意義

近代的な文化人類学は100年ほど前にB.マリノフスキーによって確立された。それは長期の参与観察をするフィールドワークとその成果である民族誌を2本の柱とする。その方法は現在に至るまで引き継がれてきた。が、文化人類学が西欧の植民地の状況を改善するために貢献すべきとの彼の思いと志しはほとんど忘れられてしまった。

本プロジェクトはマリノフスキーの初心に立ち返るとともに、現代社会の諸問題に積極的に関与し発言、発信、行動してゆくべきこと、そのための方途について議論を重ねた成果であり、応答する人類学(anthropology of response-ability)を提唱している点に社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：The aim of this project is to re-imagine and re-invent cultural anthropology as a discipline to tackle the difficult task of committing itself with urgent issues of the contemporary world. Due to the Covid 19, our plan was obliged to delay in implementation. Thanks to the generous consideration to allow the budget carryover, the project was finally completed as was planned. During 5 years (2016-2021) we held 21 seminars and published 3 books as is follows:

Shimizu Hiromu & Iijima Shuji (eds.), 2020, Original Idea and Thought Produced from Own Cultural Roots: Responding to Urgent Issues of the Age and Society, Kyoto University Press; Shimizu Hiromu & Oguni Kazuko (eds.), 2021, Method of Site-graphy to Use at School and Work Office, Akashi Shoten; Kitano Maho & Naitou Naoki (eds.) 2022, University Students' Survival Report during Study Abroad Program, Showa-dou.

研究分野：文化人類学

キーワード：応答 フィールドワーク 現場主義と関与・介入 人類学の再想像=創造 自前の思想

## 1. 研究開始当初の背景

文化人類学は、J.クリフォード & G.マーカス(編)の『文化を書く』(1996[1986])が引き起こした“ The Writing Culture Shock ”と呼ばれる知的激震によって、学の存立基盤が大きく揺らいた。フィールドワークに基づいて作成される民族誌が、調査村や町の実態を必ずしも正確に記述し報告しているわけではなく、比喩を初めとする文章表現・作成の技法を駆使して「部分的真実」を説得的に描いているだけであるとの自己批判である。それに対しては、隘路を抜けるための延命策が主に民族誌の書き方をめぐる技法をめぐって模索され試行された。そのため文化人類学は文芸批評や哲学思想研究などから影響を受け、文字を書くテキストの作成と読解に焦点を当てた研究が盛んになった。その激震は日本にも及び大きな影響を与えた。

しかし『文化を書く』の背後にある問題系は、他者=異文化の描き方や書き方という叙述のスタイルや表象の仕方にとどまらず、異文化=他者との政治的・人間的な関係のあり方であった。サイドの問題提起は、西欧によるオリエントの文学や宗教の研究が政治的な支配に支えられ、またその支配に支えられつつ同時に支配の仕組みを隠蔽しながら存続させている知的な制度に対してであった。端的に言えば、表象テキストの内部で問題は閉じられてはならず、むしろテキストが外部の政治的な支配の枠組みに支えられつつ補強している点で、きわめて政治的な営為であるという指弾であった。表象する側とされる側とが置かれている全体的な構造、つまり表象テキストの外部で制度や秩序を支えている力関係とその作用を問題化しなければならないという主張である。

本科研のメンバーは、この基本的な問題意識を共有し文化人類学をすることについて、もう一度ラディカルに(過激に根本的に)考え直したいとの思いを持った。

## 2. 研究の目的

H.24(2012)年から始めた日本文化人類学会課題研究懇談会「応答の人類学」および H26(2014)年開始の挑戦的萌芽科研「同時代の喫緊課題に対する文化人類学の<応答>可能性の検討」での研究と議論の進展をふまえ、その成果の取りまとめ出版とメンバー各自の<応答>実践を試行することを目的として掲げた。

具体的には、過去の<応答>実践の具体的な事例を、1)フィールド、2)ホーム、3)エデュケーション(教育)の3つの現場に分けて収集・整理・系譜化し、その研究成果を第2、3年度に学会発表するとともに、最終年度までにシリーズ『応答の人類学』全3冊として成果出版する。その活動をとおして、フィールドとホームで喫緊の重要課題に積極的に取り組む実践的介入の学として文化人類学の再想像=再創造(再考=再興)にチャレンジすることを目的とした。

## 3. 研究の方法

前身である挑戦的萌芽研究の一環であり発展として、なるべく早い段階で課題1)の成果であるフィールドワークに関する本の企画について、世界思想社の担当編集者と密な連絡と相談をして、具体的な章立てと内容についての調整を進めた。また、H28年5月の日本人類学会第50回研究大会の前後に執筆予定者が集まり、担当の章や事項の最終確認をした。その後は毎年3回か4回の研究会を開催して、各自が担当章・事項を報告し、助言やコメントを受けて原稿を完成させていった。それと並行して、課題2)の取り組みに向けて、先行文献の検討とともに適宜、講師を招聘して研究会を開催した。そして報告原稿と討論も含めた詳細なテープ起こし記録を基に、日本における<応答>人類学の系譜の検討を進めた。H27年度までに研究会で取り上げた戦中・戦後の代表的な人類学者である梅棹忠夫や川喜田二郎に続き、H28年度中には山口昌男、中根千枝、宮本常一、鶴見良行らを取り上げ、文化人類学の立場から戦後日本の思想・言論界に大きな影響を与えた人類学者(含む民俗・民族学者)の言動と貢献について検討し、日本というホームにおける社会との<応答>についての概念を深めた。また日本で人類学者が置かれているアカデミズムや言論界あるいは広く社会における立場(役割、期待、可能性)を踏まえ、人類学からの積極的な介入の方途についても模索・検討を続けた。

なお研究会は、研究分担者各自が中心となって九州・四国・関西・東海・北陸・関東などで開催することで、情報が東京に集中しがちな事態の変革を積極的に目指した。各地方のそ

それぞれの現場の実情にふまえた人類学の応答可能性について、地に足のついた議論と考察をメンバー相互で重ねることにより、応答の人類学が空理空論に終わらず、現場での実践に結びつけることを心がけた。

それらの協力・連携・共同研究に並行して、メンバー個人が各自のフィールド調査地で具体的な応答実践を試みた。

#### 4. 研究成果

コロナ渦のために計画の実施に遅れその他の支障が生じたが、予算の繰越しを認めていただき当初の目的をほぼ達成することができた。期間中（2016~2021年）の5年間で21回の研究会を開催し、共同研究の成果として以下の3冊を出版した。

- 1) 清水展・飯嶋秀治（編著）2020 『自前の思想：時代と社会に応答するフィールドワーク』京都大学学術出版会, 444 頁。
- 2) 清水展・小國和子（編著）2021 『職場・学校で活かす現場グラフィー』明石書店、272 頁。
- 3) 北野真帆・内藤直樹（編著）2022 『コロナ禍を生きる大学生』昭和堂、292 頁。

メンバー個人の研究成果としては、文化人類学では民族誌が高く評価されている。そのいくつかを上げると、以下である。

##### < 清水展 >

2021 『噴火のこだまピ：ナトゥボ・アエタの被災と新生をめぐる文化・開発・NGO[新装改訂版]』九州大学出版会、全 392 頁。ISBN: 978-4-7985-0312-7

2019 『出来事の民族誌：フィリピン・ネグリート社会の変化と持続』九州大学出版会、全 392 頁（1990 の新装版）。ISBN: 978-4-7985-0266-3

2019, SHIMIZU, Hiromu, *Grassroots Globalization: Reforestation and Cultural Revitalization in the Philippine Cordilleras*, Quezon city; Ateneo de Manila University Press, with Forward by Prof. Filomeno V. Aguilar Jr., pp.469 + xxx + photos 4p. ISBN: 978-9-7155-0928-2

2022 山極壽一・稲村哲也・阿部健一・清水展（編著）『レジリエンスの人類史』京都大学学術出版会 470 頁。ISBN: 9784814004010

2021 清水展・小國和子（編著）『職場・学校で活かす現場グラフィー：ダイバーシティ時代の可能性をひらくために』明石書店 267 頁。ISBN: 9784750351445

2020 清水展・飯嶋秀治（編著）『自前の思想：時代と社会に応答するフィールドワーク』京都大学学術出版会 460 頁。ISBN: 978481400300

##### < 関根久雄 >

2021 『持続可能な開発における<文化>の居場所～「誰一人取り残さない開発」への応答』春秋社, 368 頁。ISBN: 9784861107115

##### < 内藤直樹 >

2022 『コロナ禍を生きる大学生』昭和堂 292 頁 [北野真帆との共編著]。ISBN: 978-4812221259

##### < 内藤順子 >

2023 『取るに足りないものたちの民族誌 チリにおける開発支援をめぐる人類学』春風社。ISBN: 978-4861108259

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計36件（うち査読付論文 25件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 木村周平	4. 巻 87-4
2. 論文標題 共有、旅人、新しい人間 東日本大震災後の災害人類学の展開	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 670-682
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小國 和子	4. 巻 30
2. 論文標題 インドネシアの農村ガバナンスにみる「越境性」とは	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際開発研究	6. 最初と最後の頁 25-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32204/jids.30.2_25	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 西崎伸子	4. 巻 27
2. 論文標題 原発災害における加害者の「応答の不在と暴力性」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 環境社会学研究	6. 最初と最後の頁 54-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Takashi Onoda, Yasunobu Ito	4. 巻 49-3
2. 論文標題 On the boundary of services and research collaborations in Japanese state-of-the-art academic research infrastructures	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Science and Public Policy	6. 最初と最後の頁 488-498
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/scipol/scac002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Sayaka Oikawa, Junko Iida, Yasunobu Ito, Hiroshi Nishigori	4. 巻 22-196
2. 論文標題 Cultivating cultural awareness among medical educators by integrating cultural anthropology in faculty development: an action research study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 BMC Medical Education	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12909-022-03260-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tomoko Oto, Jun Watanabe, Yasunobu Ito, Kazuhiko Kotani	4. 巻 3-1
2. 論文標題 Social Networking Services as a Tool for Support of Mothers: A Literature Review	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Women's Health Reports	6. 最初と最後の頁 931-936
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1089/whr.2022.0026	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 内藤直樹	4. 巻 1182
2. 論文標題 埴外の生態学にむけて 寄生と依存が生み出す社会	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水展	4. 巻 100号
2. 論文標題 「外部思考 = 感覚器官としての異文化・フィールドワーク：ピナトゥポ・アエタとの40年の関わりで目撃した変化と持続、そして私の覚醒」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東洋文化	6. 最初と最後の頁 41-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小國和子	4. 巻 28巻-2号
2. 論文標題 「インドネシアの女子中学生にみる月経対処/管理の実態と「正しい知識」 学校教育とイスラーム規範に着目して」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際開発研究	6. 最初と最後の頁 51-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32204/jids.28.2_51	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木村周平	4. 巻 2019年10月号
2. 論文標題 「社会を持たない社会の儀礼：コンプライアンスの人類学的素描」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 19-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村周平、春田淳志、照山絢子、後藤亮平	4. 巻 20
2. 論文標題 「医療者と文化人類学者の協働の試み：筑波での経験の報告」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史人類	6. 最初と最後の頁 104-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 亀井伸孝	4. 巻 42巻4号
2. 論文標題 「人種」と「人種主義」をめぐる博物館展示の動向：フランスの人類博物館とアメリカ人類学会の展示会の事例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立民族学博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 449, 474
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sanogo, Yede Adama & Nobutaka Kamei	4. 巻 13
2. 論文標題 La promotion de la recherche sur la Langue des Signes par les communautés des Sourds africains : cas de l'Afrique de l'Ouest et de Centre francophone	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 共生の文化研究	6. 最初と最後の頁 5, 16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村周平・辻本侑生	4. 巻 10
2. 論文標題 地域社会の災害復興と『復興儀礼』：津波被災地のある「失敗」事例から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代民俗学研究	6. 最初と最後の頁 1, 16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村周平	4. 巻 83巻3号
2. 論文標題 序 インフラを見る、インフラとして見る	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 377, 384
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小國和子	4. 巻 29巻3号
2. 論文標題 「地域性を観て、創る 外国人技能実習制度を活用したインドネシア若手農業者育成の試みを事例に」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 開発学研究	6. 最初と最後の頁 14, 23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤順子	4. 巻 1巻1号
2. 論文標題 専門知のリハビリテーション<強者>の論理をひらく	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 感性と対話	6. 最初と最後の頁 21, 31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 内藤順子	4. 巻 1巻2号
2. 論文標題 支援における「受動的差し控え」という心得について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 感性と対話	6. 最初と最後の頁 46, 52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 SHIMIZU Hiromu	4. 巻 18-1
2. 論文標題 Reflection on the “Anthropology of Response-ability through Engagement: A Long and Winding Road from Fieldwork to Ethnography, Commitment and Further Beyond (11th JSCS Award Lecture	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Japanese Review of Cultural Anthropology	6. 最初と最後の頁 33-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村周平・辻本侑生	4. 巻 10
2. 論文標題 地域社会の災害復興と「復興儀礼」：津波被災地のある「失敗」事例から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代民俗学研究	6. 最初と最後の頁 85-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 飯嶋秀治	4. 巻 9
2. 論文標題 コンタクトゾーンとしてのエデュケーション	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Contact Zone	6. 最初と最後の頁 398-408
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西崎伸子	4. 巻 92
2. 論文標題 エチオピア西南部における民族文化観光の展開 新規参入のアクターに着目して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 43-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤泰信	4. 巻 51(1)
2. 論文標題 エスノグラフィを实践することの可能性 文化人類学の視角と方法論を実務に活かす	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 組織科学	6. 最初と最後の頁 30-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takashi ONODA, Yasunobu ITO	4. 巻 17(3)
2. 論文標題 Improving Scientists' and Coordinators' Incentives for Service in Academia: The Ethnographic Analysis of Epistemic Cultures in a Japanese Public NMR Facility	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Organizational Cultures: An International Journal	6. 最初と最後の頁 27-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 関根久雄	4. 巻 28巻1号
2. 論文標題 地域開発と『文化的交叉評価』の可能性 - ソロモン諸島における農村開発活動の事例から -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 開発学研究	6. 最初と最後の頁 7-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 亀井伸孝	4. 巻 19
2. 論文標題 フィールドワークにおける視覚的表現の活用: 社会調査実習の成果と近未来の課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 社会と調査	6. 最初と最後の頁 23-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kamei Nobutaka	4. 巻 1
2. 論文標題 Anthropological research on sign languages in French-speaking West and Central Africa	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Carnets de chercheurs (la Fondation France-Japon (FFJ) de l'Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales (EHESS))	6. 最初と最後の頁 ウェブジャーナル
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水展	4. 巻 81巻3号
2. 論文標題 巻き込まれ、応答してゆく人類学: フィールドワークから民族誌へ、そしてその先の長い道の歩き	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 391-412
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水展	4. 巻 3
2. 論文標題 東南アジア・ASEANの可能性と日本の関わり：たとえばグローバル化するフィリピンの例から考える	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 多文化社会研究	6. 最初と最後の頁 131-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯嶋秀治・小國和子	4. 巻 81巻3号
2. 論文標題 日本文化人類学会課題研究懇談会「応答の人類学」2012-2016	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 530-534
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sanogo, Adama & Nobutaka Kamei	4. 巻 8
2. 論文標題 Promotion of sign language research by the African Deaf community: Cases in French-speaking West and Central Africa	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proceedings of the 8th World Congress of African Linguistics	6. 最初と最後の頁 411-424
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 亀井伸孝	4. 巻 191
2. 論文標題 新しい優生思想としての"コミュ障": 異文化間の快適な対話を目指して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 こころの科学	6. 最初と最後の頁 57-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hisao Sekine	4. 巻 116
2. 論文標題 Volunteer Disappointment and Outcome of Activities Regional Perspective of Japan Overseas Cooperation Volunteers (JOCV)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 JICA Research Institute Working Paper	6. 最初と最後の頁 27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuya Hayakawa and Yasunobu Ito	4. 巻 16
2. 論文標題 Diversity of Reactions among Local People upon Commercialization of Traditional Knowledge under Intellectual Property Rights Systems	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Proceedings of PICMET '16: Technology Management for Social Innovation	6. 最初と最後の頁 1495 - 1505
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Emiko Adachi, Yasunobu Ito, Katsuhiko Umemoto	4. 巻 16 (2)
2. 論文標題 Managing Knowledge in a Scientific Paper Writing System: A Case Study of the PHENIX Collaboration	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Knowledge Management: An International Journal	6. 最初と最後の頁 21-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内藤順子	4. 巻 2
2. 論文標題 高齢社会にむけた予防医療の地域展開にかんする挑戦	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 北海道千歳リハビリテーション科学	6. 最初と最後の頁 3 - 12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計71件（うち招待講演 16件 / うち国際学会 32件）

1. 発表者名 Chika Watanabe & Shuhei Kimura
2. 発表標題 Global Connections through Playfulness
3. 学会等名 Northern European Emergency and Disaster Studies Conference 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小國和子
2. 発表標題 インドネシア南スラウェシ農村部における月経衛生対処ー公立中学校での教育と支援の事例を中心に
3. 学会等名 日本文化人類学会第56回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小國和子
2. 発表標題 職場・学校で活かす現場グラフィー ダイバーシティ時代の可能性をひらくために
3. 学会等名 国際開発学会第32回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Masaya Ando, Yasunobu Ito
2. 発表標題 Conceptual Change in Human-centered Design by Artificial Intelligence System
3. 学会等名 Human-Side of Service Engineering (HSSE) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hiromi Yamaguchi, Yasunobu Ito
2. 発表標題 Changes in the Relationship between Medical Professionals Mediated by an Information Tool: An Ethnography of Team Medicine in Japan
3. 学会等名 Human-Side of Service Engineering (HSSE) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yaeko Kawaguchi, Yasunobu Ito
2. 発表標題 The Invisible Work and its Value of Outpatient Nurses: A Case Study of an Internal Medicine Clinic in Fukuoka, Japan
3. 学会等名 Human-Side of Service Engineering (HSSE) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shun Coney, Yasunobu Ito
2. 発表標題 The production process of films from a relational perspective: A case study of independent films about Parkinson's disease in Japan
3. 学会等名 Human-Side of Service Engineering (HSSE) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kagari Otani, Yasunobu Ito
2. 発表標題 Acquisition and sharing of knowledge and skills of visiting nurses in Japan
3. 学会等名 AHFE 2022 Human-Side of Service Engineering (HSSE) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shinichi Kanekiyo, Yasunobu Ito
2. 発表標題 Value creation process in the start-up phase of a project in local community: A case study on the introduction of electronic local currency in Japan
3. 学会等名 The 5th Global Conference on Creating Value, The 5th Global Conference on Creating Value, pp.22-28 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kagari Otani, Yasunobu Ito
2. 発表標題 How to Transfer Knowledge on the "Art of Care" Closely Connected With a Patient's Living Space: A Case Study of a Visiting Nurse Station in Nagoya, Japan
3. 学会等名 The 83rd Annual Meeting of the Society for Applied Anthropology (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shun Coney, Yasunobu Ito
2. 発表標題 The Process of Problem-Solving Through Actor Transformations in Filmmaking: A Case Study of Independent Films in Japan
3. 学会等名 The 83rd Annual Meeting of the Society for Applied Anthropology (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Tomoyuki Shigeta, Yasunobu Ito
2. 発表標題 Collaborative Creativity in "Design Thinking" in the Classroom: A Case Study of at a Japanese Liberal Arts University
3. 学会等名 The 83rd Annual Meeting of the Society for Applied Anthropology (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 内藤直樹
2. 発表標題 廢墟のランドスケープ：徳島県西部地域における地質・プランテーション・世界農業遺産
3. 学会等名 日本文化人類学会第56回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 SHIMIZU Hiromu
2. 発表標題 Eruption, Exodus and Ethnogenesis: Anthropology of Engagement for 40 Years with Pinatubo Ayta
3. 学会等名 Invited Lecture at the auditorium, Ateneo de Davao University Aug. 5, 2019 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SHIMIZU Hiromu
2. 発表標題 Opening a Niche in the Philippine Society: Ethno-genesis of Katutubo Ayta after Mt. Pinatubo Eruption in 1991
3. 学会等名 Seminar on "Ethnicity, Religion, and Violence in Asia", @ Goldsmith, University of London (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 IIJIMA, Shuji
2. 発表標題 Need for International Solidarities for Fieldwork Education
3. 学会等名 IUAES (International Union of Anthropological and Ethnological Sciences) (国際学会)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 小國和子
2. 発表標題 組織的な水管理の実現に資する「越境的」アクターとは インドネシア南スラウェシ州灌漑農業受益地域の事例よりー
3. 学会等名 国際開発学会第20回春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小國和子
2. 発表標題 インドネシアの女子中学生にみる月経対処/管理の実態と「正しい」知識 学校教育とイスラーム規範に着目して
3. 学会等名 国際開発学会第30回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kamei, Nobutaka
2. 発表標題 Anthropological commitments to the society and collaborations with minorities: In the era of "post-Writing Culture shock
3. 学会等名 臺灣人類學與民族學學會2019年會 (Annual meeting in 2019 of the Taiwan Society for Anthropology and Ethnology (TSAE)) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kamei, Nobutaka
2. 発表標題 African sign languages in world history: Through the comparison of LSF, ASL, LSQ and LSAF
3. 学会等名 The 31st West African Languages Congress (WALC2019) organized by the West African Linguistic Society (WALS/SLAO) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 亀井伸孝
2. 発表標題 社会と対話・協働する人類学: その可能性と役割 (シンポジウム企画・実行)
3. 学会等名 第14回人類学関連学会協議会 (CARA) 合同シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 亀井伸孝
2. 発表標題 イバダンからアビジャンへ: 1970年代の西アフリカにおける手話言語の伝播
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ITO, Yasunobu
2. 発表標題 Blurring the boundaries between academic anthropology and industry: Anthropology and its methods appropriated in Japanese business contexts.
3. 学会等名 ASAA/NZ 2019 Conference
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤泰信
2. 発表標題 文化人類学の視角をイノベーションに活かす エスノグラフィの可能性
3. 学会等名 SPI Japan 2019 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ITO, Yasunobu
2. 発表標題 Overcoming Future Uncertainty in Service Economy: Possibilities of Anthropological Methods for Innovation in the Unpredictable Japanese Market (Enterprise Anthropology: Risk Perception and Management in Business Contexts)
3. 学会等名 IUAES 2019 Inter-Congress "World Solidarities" @Adam Mickiewicz University, Poznan, Poland (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤泰信・大戸朋子
2. 発表標題 人類学者と企業研究所との協働をめぐる(3) アカデミック人類学徒として関与することの可能性
3. 学会等名 日本文化人類学会第53回研究大会 @東北大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naito, Naoki
2. 発表標題 Nishi-Awa Steep Slope Land Agriculture System and its Conservation: Conserving Indigenous Farming Implement as an agent of human-environment system
3. 学会等名 The 6th International Conference on the Origin and Development of Millet in Aohan County, @Chifeng City, Inner Mongolia Autonomous Region, also @Meeting on the GIAHS Conservation (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naito, Naoki
2. 発表標題 Nishi-Awa Steep Slope Land Agriculture System and its Conservation: Conserving Indigenous Farming Implement as an agent of human-environment system
3. 学会等名 GIAHS (Globally Important Agricultural Heritage Systems), Food and Agricultural Organization of the United Nations, Rome, Italy
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naoki Naito, Maho Kitano
2. 発表標題 GIAHS Conservation and Material Culture in Tokushima, Japan: Conserving Indigenous Farming Implement as an agent of human-environment system
3. 学会等名 The 6th Conference of the East Asia Research Association for Agricultural Heritage Systems (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 関根久雄
2. 発表標題 協力隊的互酬感の贈与論的解釈 ボランティアは何を受け取るのか
3. 学会等名 科研共同研究会「国際ボランティアが途上国にもたらす変化とグローバル市民社会の形成」(於・国際協力機構研究所)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西崎伸子
2. 発表標題 エチオピア西南部における「観光みやげ」 地域住民による創造とジレンマ -
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56会学術大会 (於京都精華大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shiimizu Hiromu
2. 発表標題 Ethnogenesis of of Katutubo (Indigenous) Ayta: Post-Catastrophic Making of New Personhood and New Community after Mt. Pinatubo Eruption in 1991
3. 学会等名 CHAGS XII (International Conference on Hunting and Gathering Societies) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shiimizu Hiromu
2. 発表標題 Anthropology of “ Response-ability ” : 40 Years of Committed Fieldwork with Pinatubo Aytas
3. 学会等名 Philippine Sttudeis Conference in Japan ( 国際学会 )
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nishizaki Nobuko
2. 発表標題 Ethnic Tourism as Alternative Development in the Lower Omo Valley, Ethiopia
3. 学会等名 JSPS-ICHR India-Japan Bilateral Symposium at Tamil University (India) ( 招待講演 ) ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nishizaki Nobuko
2. 発表標題 Nature Conservation and “ Land Grab ” in Southern Ethiopia: A Focus on the Management of Natural Resources
3. 学会等名 International Workshop: Transformations and Visions, Max Planck Institute for Social Anthropology) ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kamei, Nobutaka
2. 発表標題 African children and childhood: Learning processes and re-creation of ecological and cultural environments
3. 学会等名 The 18th World Congress of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (IUAES) ( 国際学会 )
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 亀井伸孝
2. 発表標題 趣旨説明 + 学校と遊びの今昔: カメルーンの狩猟採集民バカにおける子ども文化と持続可能性
3. 学会等名 日本文化人類学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木村周平
2. 発表標題 "方言"を聞き、"方言"を生み出すこと」日韓学会共同セッション「自分の言語で人類学すること」
3. 学会等名 韓国文化人類学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 関根久雄
2. 発表標題 太平洋島嶼地域の人々と日本との交流の歴史
3. 学会等名 第8回太平洋・島サミット記念講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 関根久雄
2. 発表標題 持続可能な開発における文化の居場所～開発と文化の実践的距離感～
3. 学会等名 国際開発学会第29回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 SHIMIZU Hiromu
2. 発表標題 East Meets West at a Peripheral Contact Zone: Kidlat Tahimik, a film director and art activist 's deconstruction of self through association with indio-genius Ifugao gur
3. 学会等名 Special Seminar on " Potentiality of Southeast Asian Philosophy " , at Rakuyu Kaikan, Kyoto University.
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 木村周平
2. 発表標題 趣旨説明 インフラを見る、インフラとして見る
3. 学会等名 日本文化人類学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 木村周平
2. 発表標題 趣旨説明 超-人類学
3. 学会等名 早稲田文化人類学会公開シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 IIJIMA Shuji
2. 発表標題 Comparative Study of Fieldwork
3. 学会等名 IUAES at Ottawa ( 国際学会 )
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yasunobu ITO
2. 発表標題 The processes and consequences of the appropriation of ethnography into Japanese industry
3. 学会等名 The 15th EAJS International Conference ( 国際学会 )
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Eric Nelson Bailey and Yasunobu Ito
2. 発表標題 Live Streaming Changes Video Game Testing: Observing Contextual Player Behavior over Video Streaming Services
3. 学会等名 Annual Meeting of the Society for Social Studies of Science (4S) ( 国際学会 )
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takashi ONODA, Yasunobu ITO
2. 発表標題 Working Motivations of Service in Academia: The Ethnographic Study of Epistemic Cultures in a Japanese Public NMR Facility
3. 学会等名 PICMET '17 Conference: Technology Management for Interconnected World ( 国際学会 )
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yasunobu ITO
2. 発表標題 The formation of a business trend: how ethnography infiltrated the Japanese business scene in the 2000s
3. 学会等名 MO(U)VEMENT: A joint inter-congress/conference of the International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (IUAES) and Canadian Anthropology Society (CASCA) ( 国際学会 )
4. 発表年 2017年



1. 発表者名 Kamei Nobutaka
2. 発表標題 A new emerging identity of Langue des Signes d'Afrique Francophone (LSAF): A legacy and new movements of the Deaf community in West and Central Africa
3. 学会等名 The 2017 Inter-Congress, International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (IUAES) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kamei Nobutaka
2. 発表標題 Plenary 1: The role of sign language and research for the integration and development of West Africa: Cases in English-speaking and French-speaking Africa
3. 学会等名 The 30th West African Languages Congress (WALC2017) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kamei Nobutaka
2. 発表標題 Mobility of urban Deaf persons in Africa: The creation of sign languages and identities
3. 学会等名 The 7th European Conference on African Studies (ECAS7) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kamei Nobutaka
2. 発表標題 Institutions as the incubators of linguistic minority: The history of Deaf education in Africa and the role of knowledge resources
3. 学会等名 The 60th Annual Meeting of the African Studies Association (ASA) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 内藤直樹
2. 発表標題 人類学のマーケティング/マーケティングの人類学：地方創生時代の地方大学における人類学的支援の可能性と限界
3. 学会等名 日本文化人類学会公開シンポジウム「明日を拓くエスノグラフィー：混迷の時代の課題発見と解決」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 清水展
2. 発表標題 「出来事の」から「応答する」人類学へ：フィールドワークと民族誌のあいだの長い道の歩き方
3. 学会等名 日本文化人類学会第50回学術大会（第11回日本文化人類学会賞・受賞記念講演）（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 清水展
2. 発表標題 フィールドワークから民族誌、そして災害復興の支援活動へ：スローな人類学者が災害復興に関わった経験から
3. 学会等名 東京外大AA研・フィールドサイエンス・コロキウム。（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 清水展
2. 発表標題 産みの苦しみとしての自然災害：フィリピン・ピナトゥッポ山大噴火（1991）による新しい人間と社会の誕生
3. 学会等名 国立文化財機構・アジア太平洋無形文化遺産研究センター「無形文化遺産と災害リスクマネジメント」研究会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 清水展
2. 発表標題 フィリピンの社会と文化：カトリシズムと英語の力、そしてグローバル化に巧みに波乗りするトップランナー
3. 学会等名 長崎大学多文化社会学部（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 SHIMIZU Hiromu
2. 発表標題 Japan & the Philippines in a New Era of Friendship and Interdependence
3. 学会等名 Institute of East Asian Studies, National Chengchi University（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 SHIMIZU Hiromu
2. 発表標題 Cultural Politics amid Grass-root Globalization: A Case at an UNESCO World Heritage Village of Rice-Terraces
3. 学会等名 International Conference of East Asian Anthropological Association @Hokkaido University.（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 清水展
2. 発表標題 私がフィリピンで試行錯誤してきた現地との応答の試み：ベシャワール会の中村哲医師に導かれて
3. 学会等名 日本文化人類学会主催公開シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 清水展
2. 発表標題 YOKOSUKA 山口百恵と小泉純一郎・元首相を生んだ街：アメリカの影の下のニッポン
3. 学会等名 J-Talk: Digging Culture (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 飯嶋秀治
2. 発表標題 ポスト罹災地での文化人類学演習：『エデュケーション』における応答の人類学
3. 学会等名 日本文化人類学会第50回学術大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 西崎伸子
2. 発表標題 エチオピア西南部の大規模開発における民族文化観光の意義：農耕民アリによる文化の観光資源化のプロセスに着目して
3. 学会等名 日本アフリカ学会第53回学術大会フォーラム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 NISHIZAKI Nobuko
2. 発表標題 Ethnic Tourism in Ethiopia,
3. 学会等名 Workshop: Participatory Tourism in Africa
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 亀井伸孝
2. 発表標題 多様性を包摂する社会を目指して：文化人類学の三つのメッセージ
3. 学会等名 日本学術会議人類学分会公開シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 関根久雄
2. 発表標題 太平洋島嶼地域におけるサブシステム指向の生活と持続可能性
3. 学会等名 日本国際地域開発学会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hiromi Yamaguchi and Yasunobu Ito
2. 発表標題 Compartmentalization and Collaboration: An Ethnographic Study for Preventing the Progression of Diabetic Nephropathy in Japan
3. 学会等名 The 76th Annual Meeting, Society for Applied Anthropology (SfAA)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yasunobu Ito
2. 発表標題 Ethnography as a tool for identifying customers 'covert needs' ? "(Future of Enterprise Anthropology: Fieldwork in business research, IUAES Commission on Enterprise Anthropology
3. 学会等名 IUAES (International Union of Anthropological and Ethnological Sciences) Inter-Congress
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Emit Adachi, Yasunobu Ito
2. 発表標題 Hidden Cooperative Specialization in a High Energy Physics experiment
3. 学会等名 4S/EASST Conference
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kazuya Hayakawa, Yasunobu Ito
2. 発表標題 Diversity of Reactions among Local People upon Commercialization of Traditional Knowledge under Intellectual Property Rights Systems
3. 学会等名 PICMET '16 Conference: Technology Management for Social Innovation
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 内藤順子
2. 発表標題 共生社会について考える・国際協力の現場から
3. 学会等名 武蔵野女子学院・招待講演（招待講演）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 関根久雄	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 368
3. 書名 持続可能な開発における<文化>の居場所～「誰一人取り残さない開発」への応答	

1. 著者名 清水展	4. 発行年 2021年
2. 出版社 九州大学出版会	5. 総ページ数 369
3. 書名 噴火のこだま: ピナトゥボ・アエタの被災と新生をめぐる文化・開発・NGO [ 新装改訂版 ]	

1. 著者名 内藤順子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 春秋社	5. 総ページ数 280
3. 書名 取るに足りないものたちの民族誌: チリにおける開発支援をめぐる人類学	

1. 著者名 清水展・小國和子 ( 編著 )	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 272
3. 書名 職場・学校で活かす現場グラフィー ダイバーシティ時代の可能性をひらくために	

1. 著者名 清水 展・飯嶋 秀治 ( 編著 )	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 454
3. 書名 自前の思想 時代と社会に応答するフィールドワーク	

1. 著者名 北野真帆・内藤直樹（編著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 292
3. 書名 コロナ禍を生きる大学生	

1. 著者名 Shimizu Hiromu	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Ateneo de Manila University Press	5. 総ページ数 469
3. 書名 Grassroots Globalization: Reforestation and Cultural Revitalization in the Philippine Cordilleras.	

1. 著者名 清水展	4. 発行年 2019年
2. 出版社 九州大学出版会	5. 総ページ数 384
3. 書名 出来事の民族誌 フィリピン・ネグリート社会の変化と持続ー	

1. 著者名 飯嶋秀治	4. 発行年 2020年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 179
3. 書名 「人類学会の安全教授と大学ガイドラインの間で」『フィールドワークの安全対策』（第8章）	



1. 著者名 伊藤泰信	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東方出版	5. 総ページ数 340
3. 書名 「文化人類学の視角と方法論を実務に活かす ビジネスエスノグラフィの可能性と課題」八巻恵子編 『企業実践のエスノグラフィ』所収	

1. 著者名 アン・ジョーダン、伊藤泰信訳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東方出版	5. 総ページ数 340
3. 書名 「アジアにおける企業人類学ノビジネス人類学の意義」八巻恵子編『企業実践のエスノグラフィ』所収	

1. 著者名 Shimizu Hiromu	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Kyoto University Pres	5. 総ページ数 469
3. 書名 Grassroots Globalization: Reforestation anc Cultural Revitalization in the Philippine Cordilleras	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	飯嶋 秀治  (Iijima Hideji)  (60452728)	九州大学・人間環境学研究院・准教授   (17102)	
研究分担者	小國 和子  (Oguni Kazuko)  (20513568)	日本福祉大学・国際福祉開発学部・教授   (33918)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	亀井 伸孝 (Kamei Nobutaka) (50388724)	愛知県立大学・外国語学部・教授  (23901)	
研究分担者	伊藤 泰信 (Itou Yasunobu) (40369864)	北陸先端科学技術大学院大学・先端科学技術研究科・准教授  (13302)	
研究分担者	関根 久雄 (Sekine Hisao) (60283462)	筑波大学・人文社会系・教授  (12102)	
研究分担者	木村 周平 (Kimura Shuei) (10512246)	筑波大学・人文社会系・准教授  (12102)	
研究分担者	西崎 伸子 (Nishizaki Nobuko) (40431647)	芸術文化観光専門職大学・芸術文化・観光学部・教授  (24507)	
研究分担者	内藤 直樹 (Naitou Naoki) (70467421)	徳島大学・大学院社会産業理工学研究部（社会総合科学域）・准教授  (16101)	
研究分担者	内藤 順子 (Naitou Junko) (50567295)	早稲田大学・理工学術院・准教授  (32689)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Una vision antropologica como base del desarrollo de educacion y servicio Rehabilitacion	開催年 2017年～2018年
--	--------------------

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------